

慈眼大師縁起 全

21

092
37



待賢院
21
第...

092
37

東叡山開山慈眼大師縁起卷上

東叡山開山慈眼大師縁起卷上

慈眼大師諱陸奥國會津郡高田の郷

多岐生れ給ひ、若くは修理、又平盛高の

一と云ふ人、又將軍義隆の末、清みと云

ふ人も傳り、海師いすといひ、内宿氏に奉

人のとひ、うと。氏姓も新、年もしとて

いふ、あゝ、一夜をいり、入ぬ、まゝ、あ

とわれ、あゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ

も、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ

も、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ

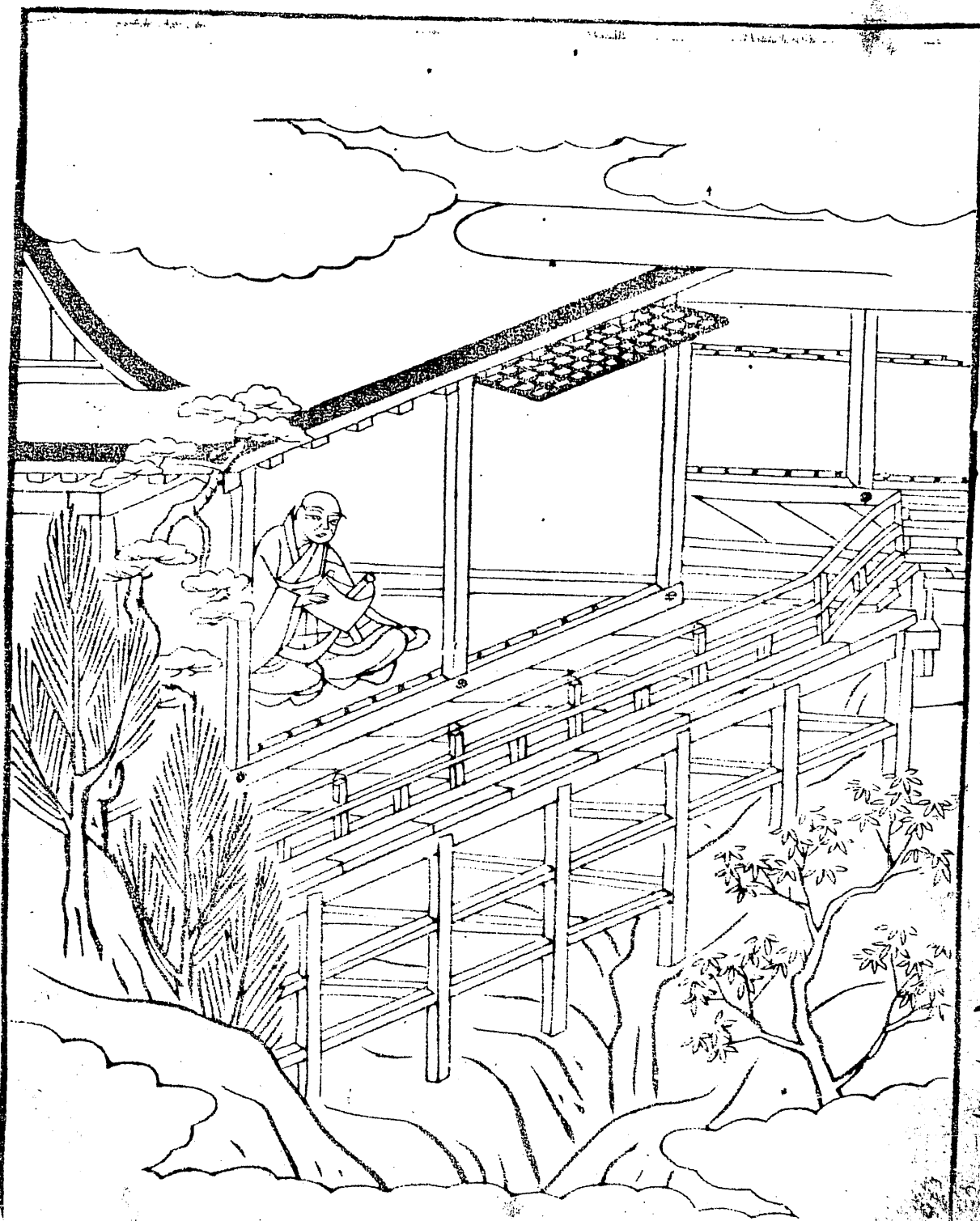
40308

世に立られ給ふは、いとあやうく
 一り酒^{さけ}され給ふ事なく。あやうく
 しまゝ嘔吐^{おうと}し給ふは、あやうく。れみ
 けられ、平^{ひら}得^える血^ちも、いひきる。よき
 も給ふは、心氣^{こき}清朗^{せいろう}めて、聰敏^{そうみん}他^たよ
 あり。人^{ひと}養^{やしな}ふ事なく。あやうく。給ふは、あやうく。
 そとととも、いひきる。あやうく。よき。高貴^{こうき}
 人^{ひと}は、あやうく。あやうく。あやうく。あやうく。
 賤^{せん}早^{はや}の者^{もの}り、いひきる。あやうく。あやうく。
 心^{こころ}借^か給^{たま}ふ事なく。あやうく。あやうく。
 勅^{しつ}色^{いろ}あやうく。

多岐にわたる事として幼少の始より
 期頤のよりひ。うらやまに過る事なく。時乃
 召。自ら経書。法を明く。わが妙
 をもとめり。終る事あり。あれも遐途。碩
 徳のあり。うらやまに過る事なく。始
 天文年中。よ始て本山のあり。修
 切は。よく神藏寺。よとみ終る。實金土
 によみえ。教親の深育と。あ。三井。よ
 権。信正。實と。いふ人。よわひ。俱舎。性相。の教
 意と。よみひ。其より南。北。よ終る。て。法。お。え

後寫の傳家乃教法と習ひ又成重といひ
 一者より此神乃の奥義と傳へあり
 日本紀伊代巻とて東より傳へ
 たり是利學校よりて孔老の文と
 み乃墨とて首楞嚴周易とて
 又云付あて大寧禪師といふ
 て教外別傳と發明し善喜怒和尚
 集とて一百則の話頭とて心
 甲陽の守護源晴信入道信玄
 山門正覺院豪盛とて碩学の傳

ありけり。清浄あり。よ。海原。海原。勸め
 あり。言辨。懸河。乃。よく。玄理。深遠。よ。ひ
 くる。終。は。嘉。盛。法。師。の。辞。理。奇。なり。と
 あり。と。惠。心。一。流。七。箇。三。重。の。奥。首。め。り
 あり。付。喉。一。終。ふ。是。より。信。玄。の。景。敬。い
 と。あり。

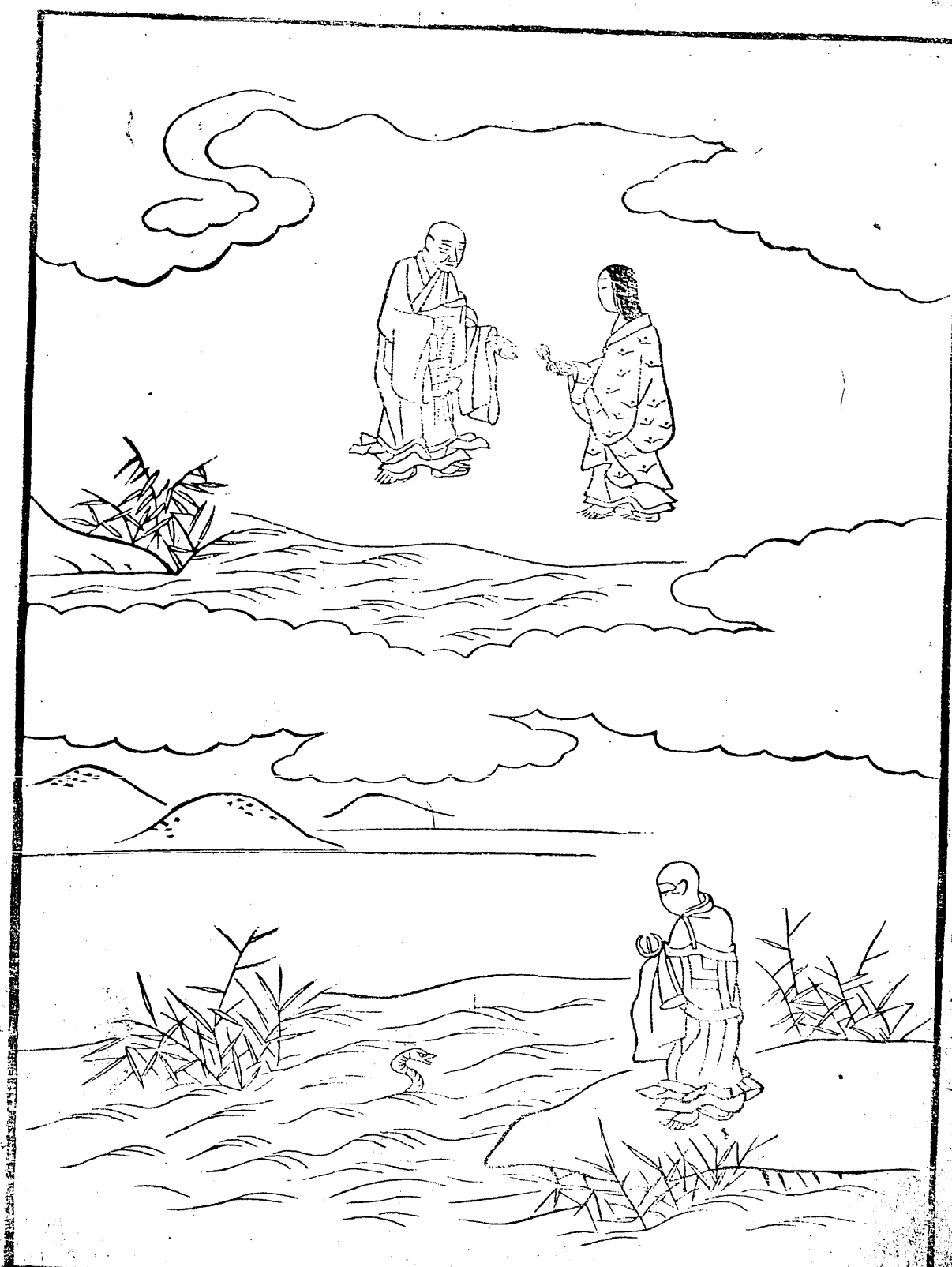


志くは名修理人丈盛言俗に乃志く
みりし會津よもいふも猶荷堂に別
當よふせざる盛高云海とをくは後常
陸國江崎といふ所よるまは友なりいふ
即よを領多よ不勅院といふ回寺乃あ
るしと修造しるもとせ給ふ文祿二年
乃表目よりけり弟弟みまもとていふ
る千里のるり苗とて民のうま
いんるれ。里のくくあみく
よ中て雨れいりくと福ひく。師と

まじりに譚よりそ。修法一終ふよ。女一人
み姑と持ちて来り。是として加持し終へと
く海原よりあつてう路にたり。海江潭
よりそ。徳雨の法と修し。佛舍利一粒
を作業し棄てあつたよう久遠へるに
あの中より書地とくして。舍利とくる處
くちのう。其時の君は黒雲立ちこなり。
うみわううなりのひきおくりして大敵
は時をさぐ。後稲葉を交う。百穀と
のりく久このあまけすす人もけり。

今もその女が来ぬ所へしりこむ
 者やとてさる人かきりけりとも
 のみ知る
 今も高山の雲より

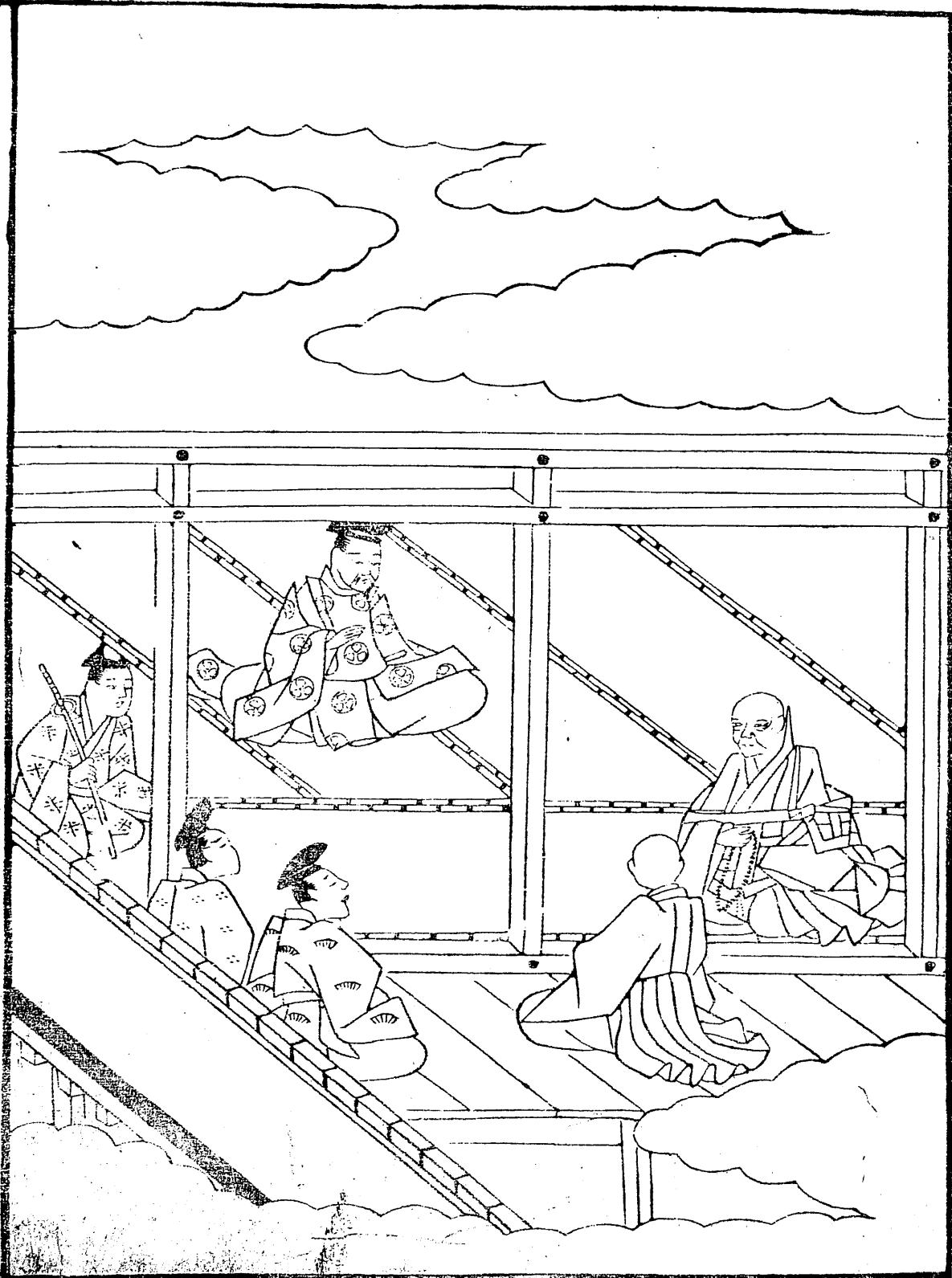
度長元年。武列仙波喜多院に入寺し、
 せが禪とみ修ふ。同八年、下野、長
 沼宗光寺といふ處に移り修つ。なる
 十二年、叡岳に就中り。修らんとて
 新論及びくハ、東照文相現とて、
 府城よりくもり。檀僧正豪盛と
 一この首として、徒らうよまうてさ
 り多し。神君理れとて、うけ
 させ修つ。惡徒とば、山と爲し、い
 其は、開東乃内各とて、修僧と稱



ひばらうまふと。施薬院入道宗伯は作
りたされ候寺のより願徳のくくと
機は長宗光と檀信の天海と智
行兼俊の人よりとくも通じたる
より山門中院南谷南光坊よりとんとはご
めさせ給へ。宗伯天海と強謙はわてまの
より。神君御對面より給らせらる。
うめそをえんゆれと。そこち山よのそと
もせんふやあふと。武列河越乃河
より仙波喜多院ハ東國よりいふ家

金葉の檀林のより檀信ゆらと。こより
檀おせは我の寺よりきとく人さ様を
えんやうと。通じ。まの山よのより。山
の學侶ととめ給へ。一年らと。行り。
おとけより給へ。う給へ。せきと。うら
富世の清浄りあやう。えんくの清對面よ。
くろ給へ。うらと。不思議なれ。人く
ひあつら。はく山よのより。檀信より。
山僧より。田舎の僧。正の准宿なれ。平山の
法。僧都より。むらじら。うら。西法より。

申しつゝ。音楽房といふ家門の格好を
 する。あまひ格好なり。ほし格好に
 小國大長。素羽人國。矢中位。次乃道。相
 あり。い。れ。も。と。ゆ。れ。め。は。事。後。後。ふ
 ま。う。に。い。ま。も。う。く。に。り。て。一。點。も。山
 禁。り。て。寒。寒。と。照。を。も。り。も。と。く
 け。く。朝。夕。の。輝。も。と。も。い。ま。も。も。も。と。て
 い。と。も。も。い。く。も。う。け。る。ふ。宗。伯。と。い。夜。の
 や。と。う。い。ま。も。も。も。い。一。種。乃。も。も。と。お。う
 も。う。く。め。は。と。も。う。け。は。い。ま。も。も。も。と。

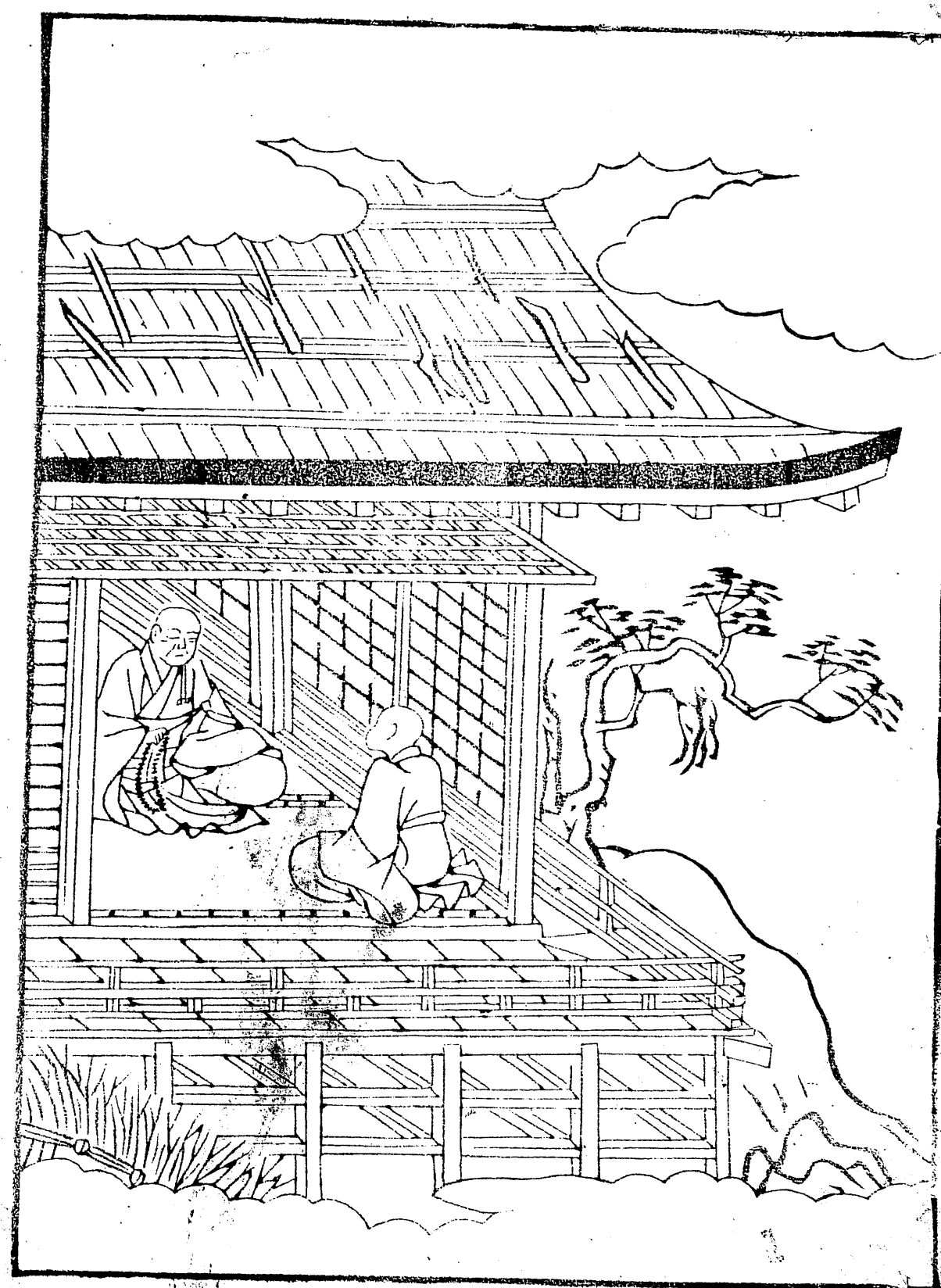


年月を祿く山はともみ給ひあり。
神君より下給ふ意なり。宗伯は侍あり
一城をわたり臺山として御内意なり有侍
一山は海畔なり給ふ。我山名三傳れ末山とい
ひくと。宗乃根々少して一葉松通なり雲
樹。たゞびあ。我へつけるなり。より夷
狄の地なりとも。今晚年に及ひ幸は平山
よ来より。今よりして終ととも人のより
ひいよんこれ。駿府よりとも。神君乃
侍あり。とて侍也。と。二夜来より。と。はるる

[illegible]

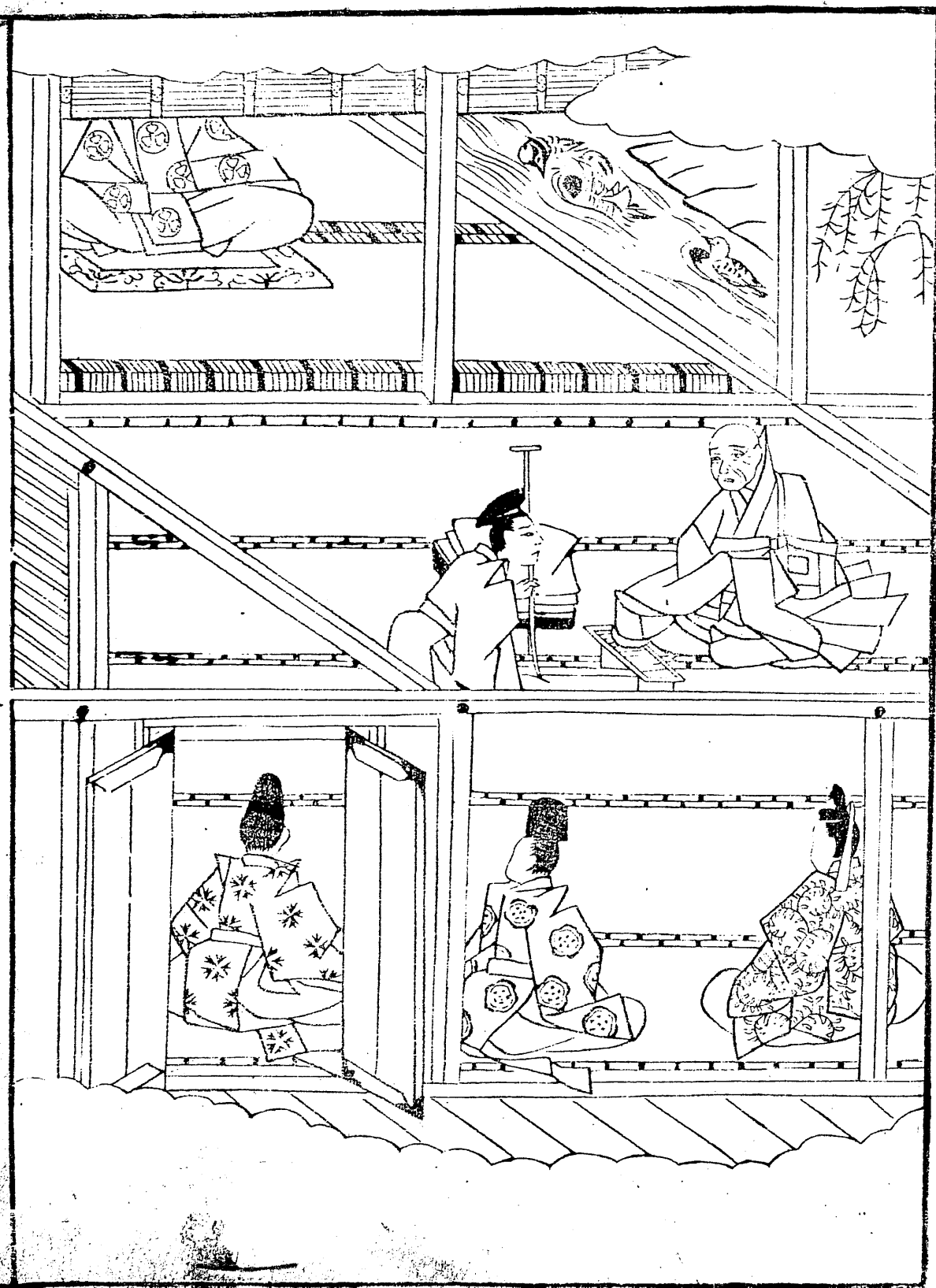
對面ありて。ひいよめづるあり。終るあり
みづみづ。ひい。群と。鶴。河。越。よ。ら。ら。
仙波の業。き。み。ゆ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
この終る。な。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
仙波。り。り。る。る。る。る。る。る。る。る。
多。く。終。る。よ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
よ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
諦。常。の。法。文。と。候。う。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
親。の。御。源。と。こ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
御。始。終。り。の。事。

九代。より。の。海。と。う。宗。と。あ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
群。一。終。ひ。山。王。一。實。の。神。道。を。真。義。と。
は。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。



其れ一十四年。山門ありて法義乃大會と
さる。會さるるあり。志は海に探題の法
乃識されい。ものにあり。さる。海に
志は博覧と人されい。の外にあり。人
の法乃海にあり。さる。山にあり。度
神意あり。さる。海にあり。さる。海に
新御の御件とあり。新題者乃結
新にあり。さる。上り。後陽成院
さる。法文とあり。さる。海にあり。さる。海に
さる。海にあり。さる。海にあり。さる。海に

一葉燕尾の帽巾うろせぬ巾衣人
 めくもめ事やうきふゆもあま
 せんあつちんまよきかたけく
 しのぼりあつちんまよきかたけく
 貴人あまゆきあまゆきあまゆき
 西のぼりあつちんまよきかたけく



百十七年 神君ひさし乃由河原に
 狩り赴きせ給ひしよりありし御衣を
 うらぐ。仙波よもろく芳流つ。寺乃はる
 え彦ふもろくちと物なりて人知れども
 てむるうらた舊なるなり。おとろよ一宇
 の草堂あり。薨破月挑常僧之體とも
 るもかりなり。弘法如來の尊像。いとそ
 うよく作造し。崇金れ妙祥と稱あり。妙
 正八のおぬも。男よりくらゐり成少侯にて
 嘆乃御後神なり。あまのふ。この雲

[illegible]



下野日光山神護景雲元年に勝道
 律師移く引移すくもり。慈覺弘法
 大師おほくさる。慈覺弘法
 大師一終る終る二芒山の秋月
 雲の多みらとと。標茅原乃
 多みらとと。草の末葉とと。日
 多みらとと。舊寺なり。とと。中
 多みらとと。の法とと。て。佛法
 多みらとと。の法とと。確執の
 多みらとと。の法とと。衆頂と
 多みらとと。の法とと。追撥
 多みらとと。の法とと。

慶長十八年。彼山と海師はあつて終ふ神
 祇府ともいふ。是よりあつた人さへ
 元和二年の正月十日まであり。神志
 はよくあつた。病床にありて海師を
 法要止観の線々山王祇所の主とす。
 ついでにこの世にありて終ひたる我久しく天
 と掌に握り世と嗣子はなかり。よるひ七
 旬よりのしれはあつた。あらよのうらやま。
 珠山は一実の祇所とうもみ孫の延久とみ
 るものなり。偏は徳師の原忌頼とありむ。

卷上十四

乃氏領を傳す大織冠を乃氏乃宗廟
 めして今よきとぞうさく人語り。鎌倉橋
 津は河威は奔りく一回とさく。多武峯
 は遷蹟せり。さるんは例よきとせ。さるん
 くとさく。久能山よきとさく。一回して日光山よ
 遷蹟せり。とさく。さく。海師は例よきとせ。さるん
 くとさく。亮せり。さるん。乃氏乃宗廟
 傳和尙とさく。さるん。多上野女。乃氏乃宗廟
 らひ。吉田の唐流めて宗源の神乃とさく。さるん
 者。乃氏乃宗廟。唯一の化義とせ。久能山よきとせ。

先きより海原といへしひまじらんせん
うくておつせしよはまの目 大樹が
ひ。御病中住しんくは。海対面ありき。
海原いばらの座よつる。世ふ傳い左の座の
よはありしうづりも。利得られの遺悼
の青どろく。御遺をよめうめ久能
山は森つよりゆるとせし海原といひ
お御遺をいりちうみなとせしうせくゆると
ありしうづりも。世ふ傳い左の座の
うよ。よりおつせしよはまの目 大樹が

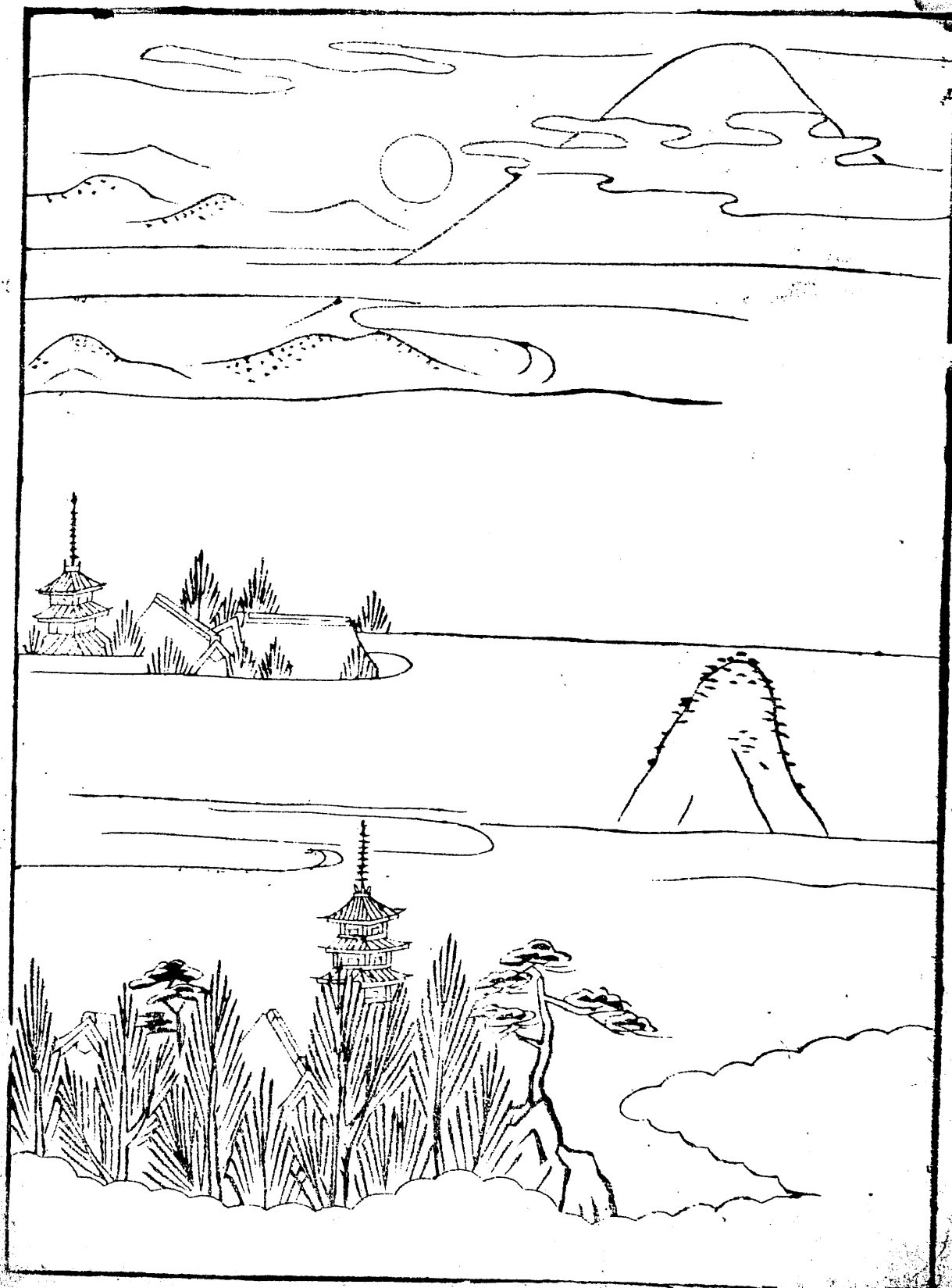
うひちやといひしは。海原いばらの座よつる。
の盟合れ神よこしゆき。メアの家原しと
し。たろく。うづりも。利得られの遺悼
國の神のよこしゆき。メアの家原しと
ゆん。の海原いばらの座よつる。世ふ傳い左の座の
ゆん。の海原いばらの座よつる。世ふ傳い左の座の
海原いばらの座よつる。世ふ傳い左の座の
乃。たろく。うづりも。利得られの遺悼
は。まの目 大樹が
ゆん。の海原いばらの座よつる。世ふ傳い左の座の
ゆん。の海原いばらの座よつる。世ふ傳い左の座の

言家とくまらめや。ゆき源とて習合
とていそく部人と同義を起りし可
と評めさうりも評あといふしして御義傳
の擧めたる事。トあせつとふとくさう
南光がとていそくを鳴よ。あーとんとく
たよりまされぬ。柳雲とやうに入と終ふ
海作の序とまされぬ。流とまされぬ。あ
し。ゆきいし。柳雲に候よ。くらせ終ふ
とて。目ゆやう人。ゆきと崇徳と西義とせしむ。
まらゆきゆき。ゆきいし。ゆきよまらゆき。ゆきいし。

めうんとあう。うきとあう。いしてまらゆきいし
まらゆき。あう。ゆきとあう。ゆきいし。ゆきいし。ゆきいし。
の部とくまらめや。ゆき源とて習合
とていそく部人と同義を起りし可
と評めさうりも評あといふしして御義傳
の擧めたる事。トあせつとふとくさう
南光がとていそくを鳴よ。あーとんとく
たよりまされぬ。柳雲とやうに入と終ふ
海作の序とまされぬ。流とまされぬ。あ
し。ゆきいし。柳雲に候よ。くらせ終ふ
とて。目ゆやう人。ゆきと崇徳と西義とせしむ。
まらゆきゆき。ゆきいし。ゆきよまらゆき。ゆきいし。

らと疎よ山王一実の淑くお家の奥に
とくもつちをゆるんとの倫書とて御念ふ
日記ふし賜ふを給ふ意は青紙へつづり
しに大樹候ひ給ふる限み一行きく一面よ
とぬぬとんも神と目光山は極くもつて
東照大権現乃神皇護國山王誓金の柱海師を様ひあ
まの給ふるまじり神を度御法事。
内よりとこまりを給ふも海師は等師にて
作園の御へ直進も度よつづり給ふ大后
と給ひ言奉候者度しと御等師よりのも物

し給ひ厳重しとて御忘の度毎に親
書くありぬ又御軍考忠とて神君より
とくも給ふ候ふし給ふと先和元年の御上
あも侍るひ給ふる院の候ふと先帝 正親町院
二十ぬの御意あるまじり御経くを給ひ釈か
佛殿計ありまじりし海師乃より給ふと
と給ひいしとてこの給ひ院中あ
ては法事とこまりを給ふ海師と給ふ
しとて給ふる人僧よりみんとに
しあふ



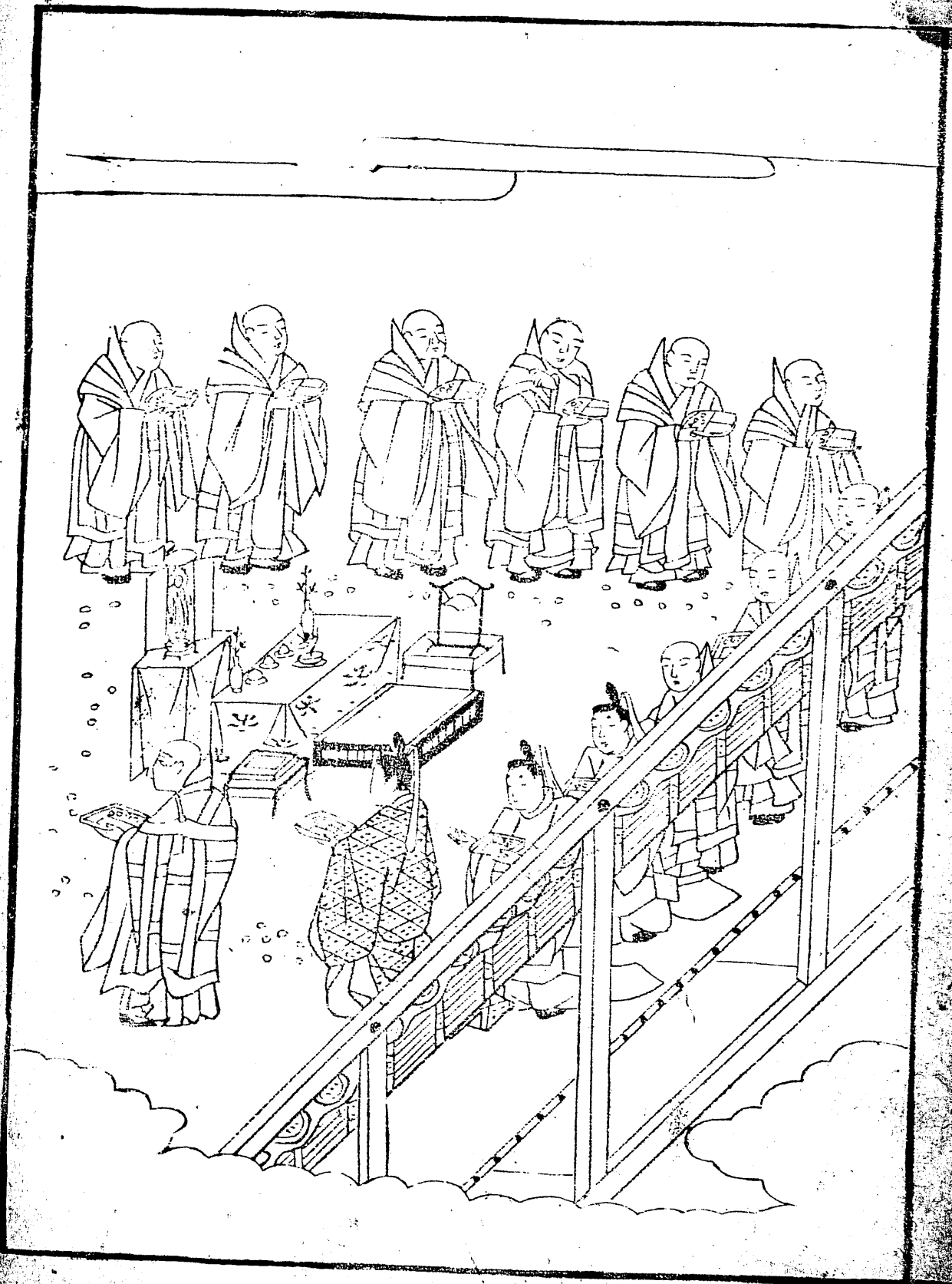
同ト年ノ夏比目光山東照神祠の奥院
 のこころふ 神君忠勅の人くろ骨
 雲ふらんこ地とく終ふよ此地
 るに仏像あはむと巖石と持て
 しあふ寸錦の金洞乃地蔵菩薩一持
 おせり今妙乃院の雲内よ安きなり
 新原正成 集人 神君のまをり
 しと庵列の亞相義直卿へ付させ給ふ
 うきあくも忠勅とにうけつるなり
 祿ぐひきるはうこまれど死後よ

御さつはゆふんとひるがまはるも
 まるよ。義直の指し禊とまゝさあゆい
 こんどくは日光山は死骸とくらまはる
 死せざる目も人よ。海の底ひるも
 とわねのつらさは成るゝあつゝ
 神の御前よゆゝとみほつたる
 あのかさすもぬもあつゝ
 あつゝとあつゝめつゝと。海と
 ーきつゝ



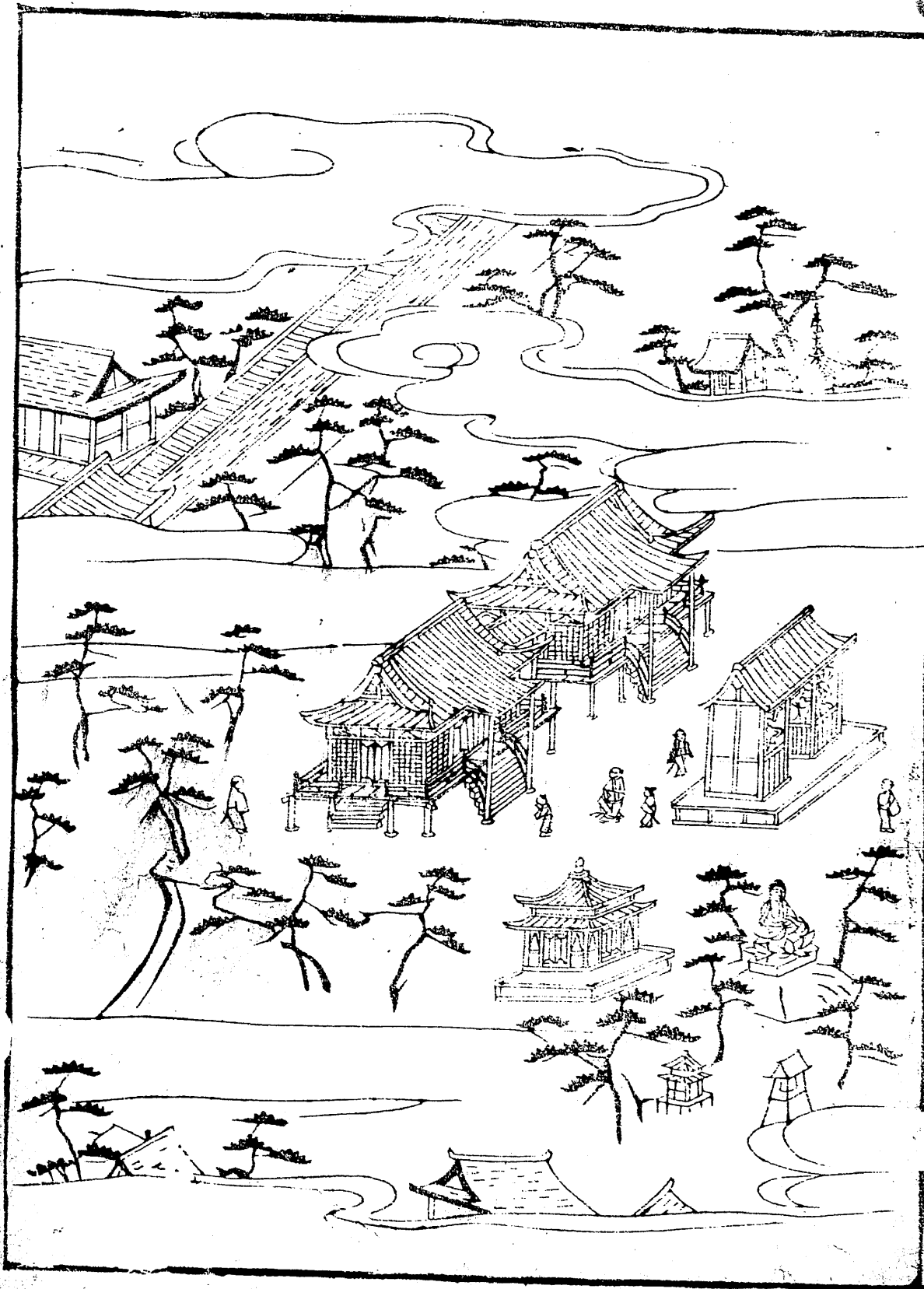
元和元年海師上京し終ふ 先帝第
三回乃聖忌九月なりよよりあひ終ふ
をよよりとせ終ひ海と御守師と
七日うやと法華殿より法華懺法と
よりとせ終ふ 上あや終ひと御守師と
氣持とせ終ふはあや終ふと終ふ
信守とせ終ふはあや終ふと終ふ
御守師よりとせ終ふはあや終ふと終ふ
海よりとせ終ふはあや終ふと終ふ
みらく海よりとせ終ふはあや終ふと終ふ

其處乃御回向とお見え悲嘆聲なり
歌曲なりとせ終ふはあや終ふと終ふ
よりとせ終ふはあや終ふと終ふ
よりとせ終ふはあや終ふと終ふ
よりとせ終ふはあや終ふと終ふ
よりとせ終ふはあや終ふと終ふ
よりとせ終ふはあや終ふと終ふ
よりとせ終ふはあや終ふと終ふ



東叡山寛永寺慈眼大師縁起卷下
 寛永元年 秀忠公作をる先考既よ
 天台乃宗家よ帰し終り。新がうくを
 城邊よ。あゝあゝ練着と開けしを
 河城の東よ。あゝあゝ地と終り。あ
 りなむはらり終り。叡王城の鬼門よ。あ
 りなむはらりて東叡山と号し。あ
 安金珠よ。大樹のうへ天下泰平といふ
 終り。あゝあゝの將軍 家光公宗廟
 とあゝあゝ終り。あゝあゝ終り。あゝあゝ終り。

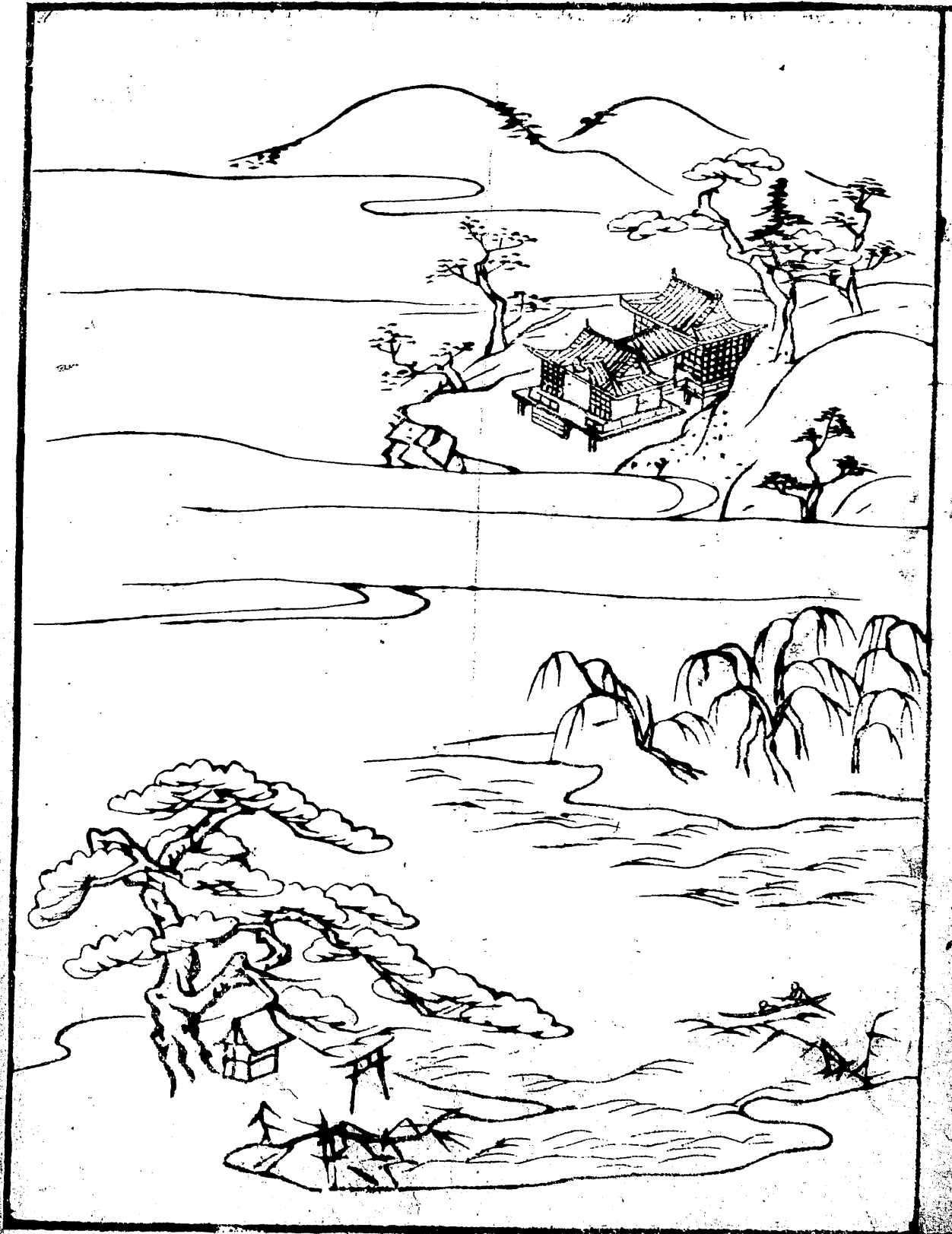
海師^{くわいし}所のうへ。叡^{あき}岳^{くわく}東^{とう}坂^{さか}中^{なかつ}志^し葛^{くわ}づつ。山の
井^いの透^{てう}よ。法^{ほふ}勝^{しやう}寺^じの回^{かい}号^{ごう}とやうめく寺^じつ
らり終^はいする。今号そらちのうららふ
中^{なかつ}り東^{とう}照^{しやう}の御^ご社^{しゃ}と造^{ぞう}堂^{だう}終^はふその
上^{うへ}をほひ梅^{ばい}植^ちは金^{きん}玉^{ぎよく}とらりやうめ錢^{せん}
うやう。所^{ところ}のさぬもいもじとさう西^{さい}
白^{はく}し後^{こう}ひりなうの山^{さん}梯^はは志^し葛^{くわ}なる
志^し葛^{くわ}をちぢひくさうれもに北^{きた}の
らめ。約^{やく}立^{たち}なう。業^{わざ}ばう。東^{とう}り。東^{とう}
とれるゆうめ。勢^{せい}多^たのちう橋^{はし}こく



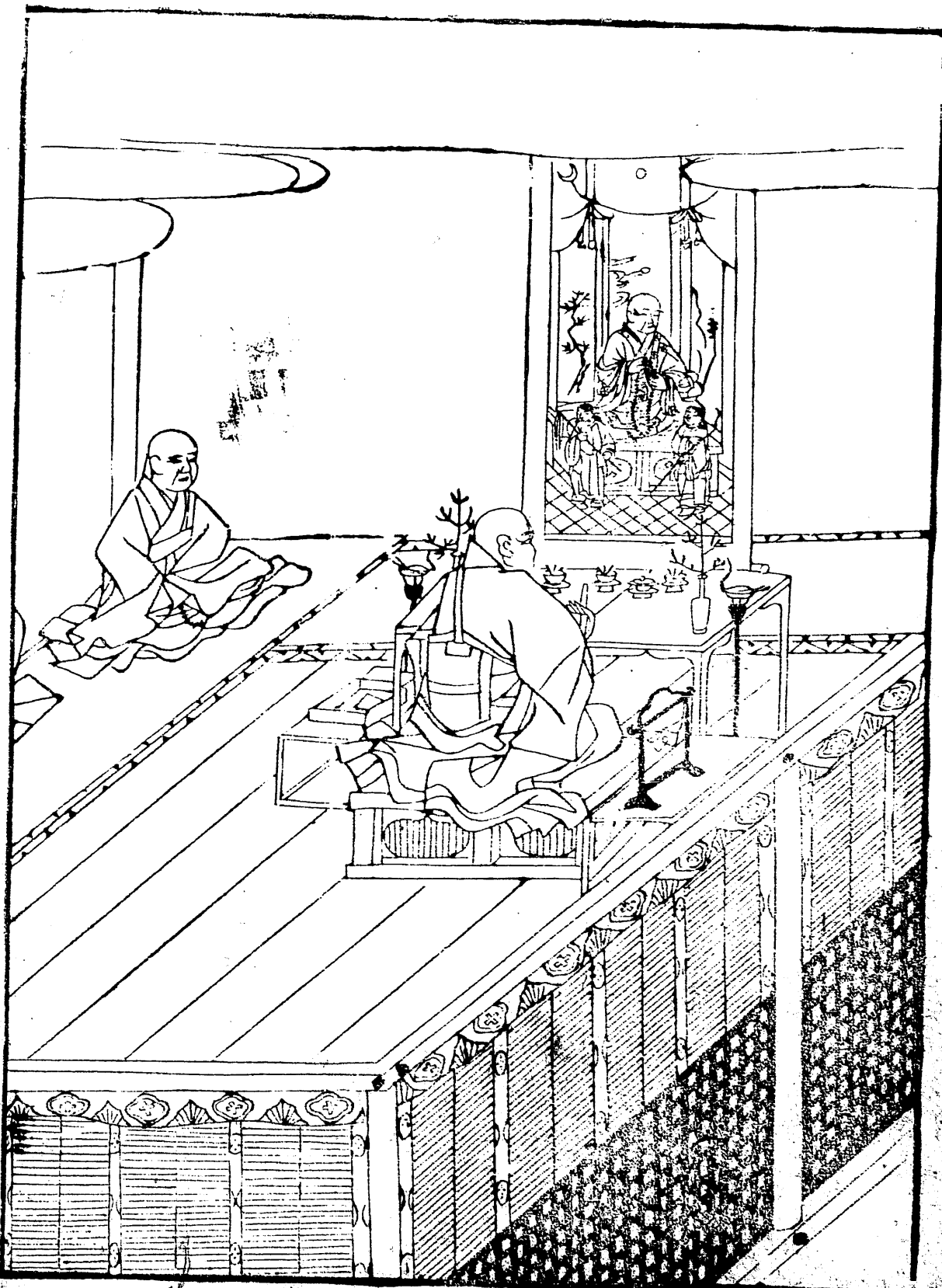
よみえ。東は鳴乃浦く。海りうく。満ぶ
の遠山もけさやうぬ。少事ある月
新く。海鏡の山も。みとる。さうり
まらうく。みく。水い。松吹風のむく。さき
かふ。と。き。の里らうく。あう。麻乃祿
も。さき。雲井の。居れ。きく。う。雲田
の浦は。う。あ。の。め。あ。う。きく。と。れ
ど。さ。さ。め。と。さ。く。白。書。の。障。は。り
あ。さ。良。の。き。う。ぬ。き。う。が。ら。う。く。み。て
き。う。う。ぬ。景。地。り。り。寛永十一年

大樹の上は。は。う。い。上。京。の。つ。い。て。よ。勅。許
と。う。さ。り。祢。祢。勸。徳。の。儀。式。お。渡。ぬ。き
。勅。使。官。幣。と。う。け。宣。令。と。も。み。ま。ひ。て
。き。う。う。そ。て。聖。目。の。海。き。う。り。と。さ。さ。い。け
。山。の。海。門。う。き。座。は。は。う。う。り。は。い。う。れ
。さ。え。と。の。く。列。座。う。て。さ。の。う。さ。り。の。殿
。き。り。り。大。樹。家。光。と。う。り。二。百。名。の。地
。と。祢。祢。う。て。さ。さ。さ。き。う。り。板。又。上。野
。國。新。田。庄。世。良。田。山。長。樂。寺。の。台。密。禪。三。宗
。弘。通。の。梵。刹。さ。く。新。田。徳。川。乃。墳。墓。と。ん

一。多宝塔方丈厨屋ありありに
ありしむれど御神供儀也て。
大樹より二百石の地と。そのありは
こそよりめく。せを給ふ。近年穀
ぞばびりもあらゆらうと。そ
ろき場となり



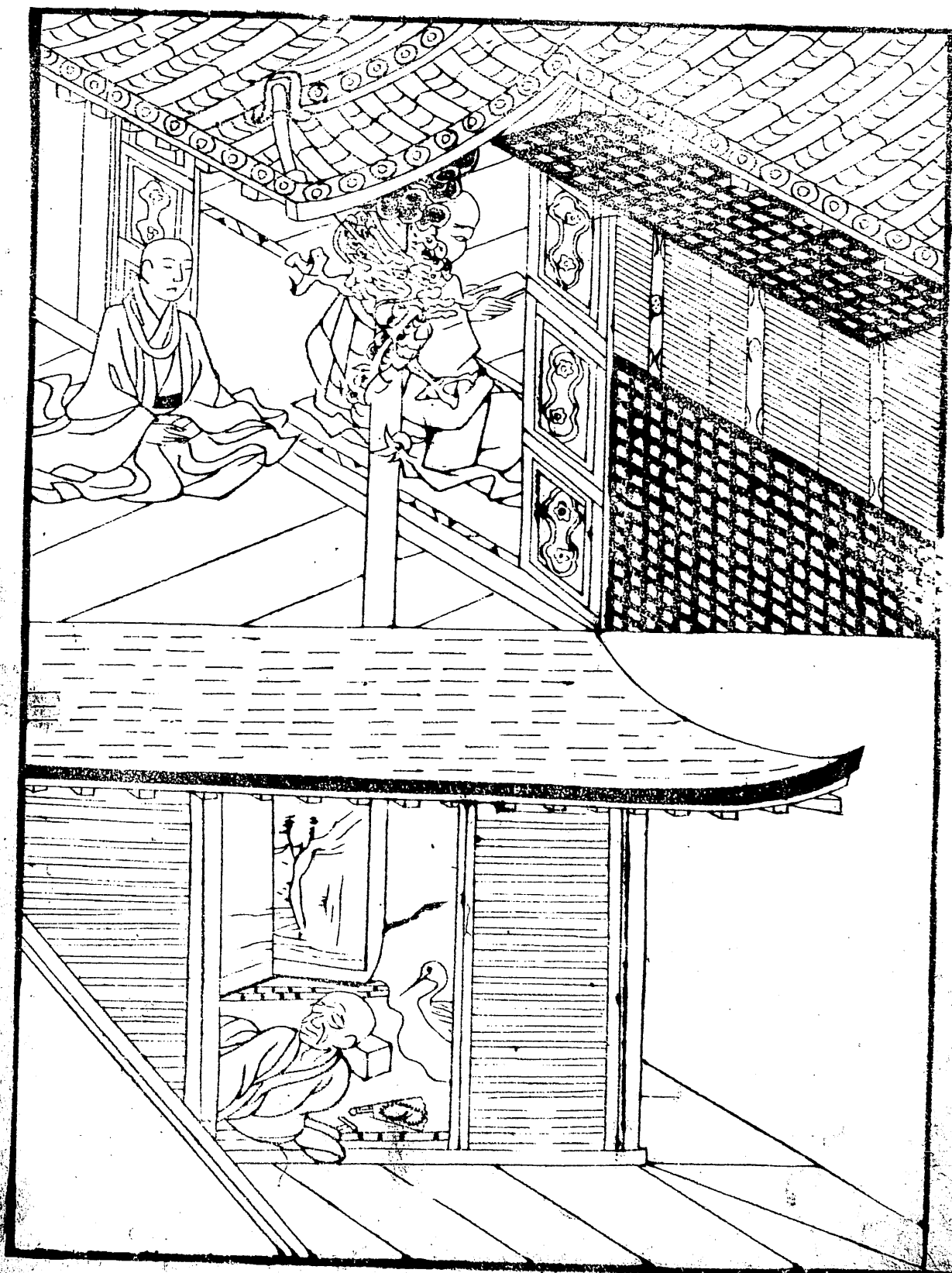
寛永十七年の比とよ
 人樹神みゆみせぬ
 事どもろくせ給いつ。令副神誕生と
 海神は修り給へ給ふ海列よけは慈恵
 人師の尊像かめしとてえりぬの御
 として男老平産と給へんと思ひ給へる海列
 の津城と給ふ後なまふた父おぬる虎ら
 作檀の修りあふれ令副平産の御祈のあはれを
 像下後夜のおの給いつとてあふるをてと見
 していつつとては給ふとていつら
 東殿の道場よまきとていつのせ給ふ



さて又日光山 東照の神あるといふ新文
 の祠中へ丹精とて詣りて詣りて詣りて
 してふもん。白くみよのれ一板海師と
 してはなり。あまのくちりてきて詣りて便
 生福徳智恵之男の經文なり。とてなり。と
 悉くしりと思ひ詣りて。神前を
 まゝて詣り八月三日のちの日の夢に。信現
 佛のよび。いづれもせ詣りて。白く詣りて
 白く詣りて。いづれもせ詣りて。海師は来し物
 といひ。いづれもせ詣りて。海師は来し物

せきあがりくさくさふあき頃 今嗣年
 産きまじひとひよりあきし終ふもはな原
 盛 中夜氏 大樹より沖使あき二日二日と
 こより。登山してありしよの言 市産
 の終ひもし清さうあきわたりし。は盛ん
 えばさうも。山月も夜なりと尸て何と
 こへの終とあきしうなりやうめみえ終ひ。
 美の清きうより。平産今やもやわらん
 とう終ひ。め盛んふくあきト山
 よなよて清産生清統の清使うく

源廣之 源廣之 よあひまゐる。そそ旨 旨 大樹よ 大樹
 あまは。いよく信 信 じやま。結ひ 結ひ
 えて清ふや。いふも。山 山 法師 法師 を
 せふ。百年 百年 のふらひとは。此 此 君 君 よ。ゆ
 かりんといふ。升 升 して。竹 竹 子 子 代 代 丸 丸 の御 御 日 日
 らる。付 付 せり。終 終 へ。ア



海
山
之
心
不
動
也
。 志
氣
忠
誠
。

紀三盛
留加賀寺
源信繼
聲傳異寺
阿部忠秋

其後守
國重次
對馬守
乃執權
の家臣と

うめ中根文の全相乃人くと院心よ

付とせ給ひよるを

一、張子之「性理」或時近

盛作書とてきくせんくまに海

作とい
組
神
人
権
現
せ
い
ま
と
う
と
く
れ

田中 久

この御移しは地を以て事をなす

十月朔日の夜、身みごとくしんわの光を
みる。人の後の令法久恒のときとてまことの終
ひ。大樹へのゆいんやまゝうせぬれど
海よりなるぬる目の明もあつた。また
會と看し念珠と結びつらうのをほめ
し。書籍と二紙はけり文珠の影白とぬ
し。端坐会掌し。林うづぐしく入寮し。終
む。目のもちまゝとてゆるぎなく。容貌いを
おろし。色あひるふ事あり。人樹
さうし。うせぬ心のかげみ親

よとられしうらなひ七日の夜御さうめん
て狩なんとおもひ出させ給ふみ采つこ
のあまひともどもりぬ遺言より
うせ日光山よなりきり大樹のゆふ
より旅彼のさるなるをくか國の武士を
東照宮神幸れ儀式よもぐつたどろ
せ給ふく中隠すわたり日光おして。足方よ
まは事とりりせ給ふく強う日教といふ
めくらりなりせ給ふく真言宗よの地
四ヶ寺禪めい大徳寺の沢庵和尚海玄宗よ

夢く飲食何の妨禁も無く人のあつて
 はまうせくおろい終つて思ふは人の作
 り。枸杞飯と賜ふと依りおろし後
 者もうてふと。物語し終つておろし後
 夢長生ありて當は此飯と好くし。こ
 し終つても能く夢うてふはよくし。好く
 終つてもよくし。好くし。好くし。好く
 乳と壯少。五勝七賜と補をむ。も醫
 書もよくし。心氣は人の根源なり。も
 願くもよくし。天命と盡さん事。

僻事といひぐく。此の唐の陸龜蒙
 の杞菊を食して精神を頤養とといひ
 て。杞菊の賦を作さる。至賢の上めなりと
 養せられんされど。禮記めも。為訛者酒
 以介眉壽といひ。周書よ。稱五福壽為先と
 詔。孔子も仁者ハ壽一の終つてけいせいの
 多ともなり。至賢乃ちめといひ事
 よ。ゆゑに又我なりりこれの義愛の長生と
 宿日のもとと取なれ。いづれも杞菊めよ
 ら。されど杞杞ハ心氣と補くと長生の助

いふも私欲よきなり。其理と曉め
て又彼蓋常陸房邪。海國而
意と云ふも。残愛と云陸房とい
は海作といふ。此の終ふ處を思ひ
神宗の事なり。はあくも思ひいら
の事といふ。此作の性人よめといふ。況理よ
然せざる事。なんぞいふらんや。又作の
任意隨時勿急勿速緩と慢と。の終る
るもと記さる。此調の褒言とやいふん。貶詞と
やいふん。聖賢の心術の寛裕溫柔といふ

或は君子の坦蕩といふ。無欲速とも現る
一の勿速勿急緩と慢といふ。異事
めや作らる。これの褒詞めをいふ。さうと
思ふ。嗚呼浮屠大惑。其所不至といふ。今
此一後褒貶叢雜して鋒楮をす。一
慢と是延壽といふ。人々もいふ。これ
よくて浮屠の大惑といふ。人々もいふ。聖
なり。通はぬ。此の終る處を思ひ。又作の
これ孔子春秋の筆也といふ。やう事と
いふ。作らる。聖賢の言といふ。誦して

理よりたれどもやゆらん。彼者天姓不若
多欲ゆて。凡愚の人も然るもの事
十年の時より。さうなれども。さうなれ
ゆて。彼が謗言の事。りるれい。筆に
とく。記しゆ。

余嘗自勿侍師之座下。而每日不相追
隨。恰如形影之相從。然故其舊勲積德
取取識之者。而作其傳。癸亥己前之事
跡者。亡父宗伯。取悉識之者也。仍詳誌
之。垂不朽。世言先師之異行者。徃々有
異。于與實者。只以此記。可為證而已。

慈眼末弟僧正胤海記

此兩 大師御縁起者。東叡山雖為

秘鑑之靈書。蒙御

免許奉續。并

布千世間者也於他取不可有類板
之旨任 嚴命加與書畢

延寶八年龍集庚申仲冬穀旦

江戸通本町三町目

村上嘉右衛門

同善兵衛 刊行

